

序

2004年6月24日に第126回日本医学会シンポジウム「アレルギー・アトピー性疾患」が行われ、多くの方が参加された。これはその記録集である。

アレルギー・アトピー性疾患には、気管支喘息、アレルギー性鼻炎・花粉症、アトピー性皮膚炎を中心に多くの疾患がある。その中には年間死亡者が数千人に及ぶ気管支喘息など重篤な疾患も含まれ、まさに国民にとって大きな脅威となっている。今回はその原因としての遺伝子素因、さらに病態形成に重要なサイトカイン・ケモカイン、転写因子、そして治療の将来展望の3つのトピックスを第一線の研究者の方にお話しいただき、議論をした。ホットなディスカッションの一端なども感じ取っていただければ幸いである。

多くの研究の積み重ねにより、少しでも多くのアレルギー・アトピー性疾患が、少しでも早く征圧されること願ってやまない。

第126回日本医学会シンポジウム組織委員

小川 秀興
奥村 康
山本 一彦